

Mランドニュース Vol.204

丹波ささ山校 令和6年4月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 前川 昂希
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

できないと決めているのは
誰かという自分自身なんです。
人は決めませんから。

高田 明(ジャパネットたかた創業者)

心を寄せて

共習・共育部長
南勝 宏幸



津波で流された缶詰を回収するお手伝い(当時)

令和六年三月十一日、東日本大震災が発生してから十三年。これだけ長い年月が経った今でも、二万六千二百七十七人(令和六年二月一日時点)の方々が、避難生活を余儀なくされている現状が続いています。月日と共に、あれだけの被害をもたらした出来事も私たちの記憶から風化してしまいつつあります。時は過ぎますが、当時私は災害復興ボランティアに参加し、宮城県にある「(株)木の屋石巻水産」、中村暢宏様と現地でお逢いしました。

フェスタで聴かせていただいた、中村日香様が記された震災体験記の一部をご紹介します。



静寂のロビー

中村様とお話しをさせていただく中で、あの日の記憶・教訓を決して忘れてならないという想いから、中村様の体験を当時のMランドフェスタでお話ししていただく運びとなりました。フェスタでは被災された当時の様子など、お嬢様(中村日香様)の想像を絶する体験記を拝聴させていただきました。中村様のお話しを聴かせていただき、より一層風化させてはいけないと心から感じ、翌年から毎年欠かさずお昼休みの時間にゲストと一緒に被災された方々に心を寄せて黙とうを捧げています。

涌谷中学校二年(当時)
中村 日香 様

震災のあと、初めて電気がついたときは本当に嬉しかったです。また、蛇口をひねって水が出たときのあの感動は、一生忘れないと思います。「あたりまえ」は全然、「あたりまえなんかじゃない」とおもいました。

この震災を通して、友達や家族の大切さを改めて強く感じました。そして「あたりまえ」は決して「あたりまえではない」という事がわかりました。「あたりまえ」に毎日を通し「あたりまえ」に感謝したいです。

また、「一寸先は闇」というのは本当だと思います。「必ず明日があるわけじゃない」。だからこそ、「今日を大切に生きて毎日悔いのないように生きることが大事」だと思っています。

今生きていることに、家族がいることに、そして一緒にいてくれた友達に一杯の「ありがとう」を言いたいのです。亡くなった人の分まで泣いて笑って、一生懸命生きていきたいです。

当時中学二年生の少女が日常は「あたりまえではない」、「必ず明日があるわけじゃない」と目の当たりにするほどの大災害。決してこの出来事は時代が進んでも風化させてはいけません。今年度、私たちMランドでは「ありがとう」が飛び交う教習所を目指し、様々な事に取り組んでいます。今、生きていられる事、両親や友人と日々の生活を送れていること、笑ったり泣いたりできる事、水や食事を毎日いただけること、どんな些細なことにも、「ありがとう」の気持ちを忘れずに、一生懸命生きていくことを、ゲストの皆さんと分かち合う時間となりました。今後もゲストの皆さんとともに、あの日を決して風化させないように、黙とうを通して後世に伝え続けていこうと思います。

ささやかなプレゼント

営業チーム 後藤 茂

ひな祭りホワイトデーの日に皆さまにささやかなプレゼントをお渡ししました。

【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にトイレ掃除をしませんか？

- 場所 Mランド
- AM8:00~AM9:00

※トイレ掃除のできる服装でお気軽にご参加ください。



笑顔は最高の癒し

Mランドにお越しいただいた感謝の気持ちを込めて、職員のメッセージを添えたお菓子をお渡しすると、満面の笑顔で喜んでくれました。このように喜んでいただき、嬉しそうにされている皆さまの様子をみると、大変嬉しく感じます。プレゼントから絆を深め、Mランドのアットホームな雰囲気気が伝わればと願っております。

「ありがとうの連鎖」

顧客チーム 寄本 公一

私は日頃、ゲストが滞在している三つのホールのゴミ回収と分別、そしてそれを集積場へ持っていくという活動を毎朝行っております。ボランティアの参加申し込みがあった時には、「ホーム清掃に学ぶ会」としてゲストと一緒に活動を行います。

ボランティアを行う中でゲストから色々なお話を直接聞くことができるので、私自身これを楽しみにしているところがあるのですが、今回はそんな数あるお話の中から特に感心感動したものをお伝えしたいと思います。

いくつかあるボランティア活動の中から、特にホーム清掃ばかりを選んで参加くださるゲストがいらっしゃいました。その理由を聞かせていただくと、「自分が滞在する場所なので、少しでも自分の手できれいにできれば」とのことでした。この時点ですごく意識の高い人だと感心していたのですが、卒業間近になってさらなる意識の高さを見せてくれたのです。

彼女曰く、「毎朝ボランティアをしていたので、ポイントが結構貯まりました。でも使い切れないので、それを洗剤に換えます」とのことでした。

一人暮らしをされている方だったので、「家に持って帰って使うのですか？」と聞くと、「入校間もない頃、洗濯しようと思ったら洗剤がないことに気付きました、どうしよう」と思っていたところに、「使い切れず、余ったので自由に使って下さい」という卒業生からのメッセージが書かれた洗剤が置いてあり、それを使わせてもらい、非常に助かったので、自分もお返ししたい」という想いからされたようです。



ゲストからゲストへ受け継がれる
想いが詰まった洗剤

この話にいたく感動した私は、これまたホーム清掃によく参加してくれていたゲストに「あの洗剤はこういう

経緯で残していつてくれたものなんやで」と話すと「実は私もあれを使わせてもらって助かったんです」ということで、同じくボランティアで貯めたポイントを洗剤に換えて残していつてくれました。

こうして、ゲストからゲストへの「ありがとう」が連鎖しています。

これこそ「真のボランティア活動の意義」なのかもしれないと、私自身が気付かされ更に考えさせられる出来事でもありました。



ホームのゴミ回収をゲストと一緒に

これ以外にも、「最初はポイント目的で参加していましたが、毎朝参加することで生活のリズムが整い、何かをきれいにすることで、一日気持ち良く過ごせるようになったので続けている」であったり、「誰かが裏でしてくれていることで気持ち良く過ご

せているのなら、してもらえばかりじゃなく、自分でもそうしたい」など、こちらが思っているよりも遥かに高い意識を持ってボランティアに参加されている方がたくさんいらっしゃいます。

私もこのように思っていただけの方々の想いに応えるべく、これからも全力でサポートさせていただこうと意気込んでいます。

新入社員紹介

顧客チーム 西出 周平

この度、一月十二日からMランドに入社した西出周平と申します。

前職は大阪で教習指導員として従事しておりましたが、身内が行っている丹波篠山黒枝豆の収穫から販売までを毎年手伝っているうち、次第に丹波篠山の環境や子育て、食に対して興味を抱くようになり、意を決して大阪から移住しました。

現在二カ月がたち、Mランドの方針や教習内容など、諸先輩方からアドバイスをいただきながら教習に取り組んでいます。



はじめまして 西出周平です

四月にはMランド益田校での新入社員研修も控えておりますので、「初心忘るべからず」新たな気持ちで精進していく所存です。よろしくお願いたします。

友情の輪

変チーム 大澤 竜貴

毎朝八時から行っているボランティア。この日も朝から大勢の方が参加されました。まだまだ、吐く息も白く寒い日が続いている中でしたが、元気に「おはようございます」とあいさつしてくれるゲストから、毎日元氣をもらっています。

今回のボランティアでは、校内に飾っている観葉植物の手入れと一緒にさせていただきました。

みんなで輪になり、活動をしていると初対面でも自然に会話が生まれ、笑顔が飛び交います。このようにボランティアを通じて友情の輪が広がるのも魅力の一つだと思っています。

掃除から生まれるたくさんの可能性。これらをより多くの人と共有できるように、私も元氣にボランティアに励んでいきます。



自然と友情の輪が

編集後記

十三年前にも掲載した震災の体験記を再掲載させていただきました。私自身も久しぶりに読ませていただきましたが、「あたりまえはあたりまえではない」ことを再認識させていた。感謝。

前川 昂希